第 3 回　摂津市地域公共交通協議会　議事録

開催日時　令和 6 年 10 月 22 日（火）14 時 00 分～15 時 30 分

場　　所　摂津市役所 本館 301 会議室

出 席 者

＜委　員＞ 28 名中 23 名参加（うち 1 名 Web 参加）

(1) 摂津市長又はその指名する者
- 摂津市建設部　永田委員

(2) 公共交通事業者又はその指名する者
- 西日本旅客鉄道株式会社阪奈支社地域共生室　中嶋委員
- 阪急電鉄株式会社都市交通事業本部沿線まちづくり推進部　松井委員
- 大阪モノレール株式会社運輸部　中川委員（web 参加）
- 阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部兼新モビリティ推進部　野津委員
- 近鉄バス株式会社営業部　宮本委員
- 京阪バス株式会社経営戦略室　北西委員
- 千里丘タクシー株式会社　松浦委員
- 株式会社国際興業大阪摂津営業所　庄司委員（欠席）

(3) 公共交通事業者の運転手が組織する団体又はその指名する者
- 阪急バス労働組合　石崎委員（欠席）

(4) 道路管理者又はその指名する者
- 大阪府茨木土木事務所地域支援・企画課 企画グループ　田口委員
- 摂津市建設部道路管理課　吉田委員

(5) 国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局長又はその指名する者
- 近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門　釈迦戸委員
- 近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門　中村委員

(6) 公安委員会又はその指名する者
- 大阪府摂津警察署交通課　谷委員（欠席）

(7) 地域公共交通の利用者
- 公募市民　森田委員
- 公募市民　林委員

(8) 学識経験者
- 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻　土井委員〔会長〕
- 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻　青木委員〔副会長・分科会長〕
- 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻　葉委員〔分科会運営協力〕
- 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科　山口委員（欠席）

(9) その他協議会の運営上必要と認められる者
- 大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課　江藤委員
- 摂津市商工会　島内委員〔監事〕
- 摂津市市長公室政策推進課（鳥飼地区まちづくり担当）　寺田委員
- 摂津市生活環境部産業振興課　鈴木委員
- 摂津市保健福祉部障害福祉課　由井委員
- 摂津市保健福祉部高齢介護課　細井委員
- 摂津市教育総務部教育政策課　小西委員（欠席）

＜事務局＞　摂津市建設部道路交通課　黒田、高畑、平神、小林

＜傍聴者＞　3名

1. 開　　会

嶋野市長：このたび摂津市長に就任しました嶋野浩一朗です。本日は大変お忙しい中、第3回摂津市地域公共交通協議会に、交通事業者の皆様をはじめ、公共交通の利用者代表の市民委員の方々など大変多くの方に出席をいただきまして、ありがとうございます。

全国的に公共交通を取り巻く環境は厳しくなっており、摂津市においても、とりわけバス交通を取り巻く環境は厳しく、利用者の減少や運転者の不足など、様々な課題があると認識しています。また、大阪府内でも路線バスの廃止という問題が起きている地域もあり、こうした問題には目を向けていきたいと思っています。

一方で、高齢化が進む中、高齢者の移動手段確保の重要性はますます高まってくると認識しており、こうした状況において、高齢者を含めた市民の移動手段確保にあたっては、公共交通に関わる皆様との「連携と協働」による取組が不可欠であり、移動に関するニーズをしっかりと吸い上げていくとともに、企業の本質を踏まえた事業者間の合意形成が重要であると考えています。

これまでも協議会とその下部組織である分科会において、市の特性である平坦でコンパクトであることや、事業所が多く昼間人口比率が府内で大阪市に次いで高いといったことを踏まえ、「目指す将来像に向けた6つの目標と具体的な施策」について議論を重ねてきたところであり、今回は、施策と役割について合意形成を図るところと聞いています。

委員におかれては、山形県鶴岡市への現地視察にも対応いただくなど、熱心に取り組んでいただいていることをありがたく、心強く感じています。引き続き、本市の公共交通の確保・維持にかける熱い思いを存分に議論いただき、より良い形でまとめ上げていただきたいと思います。

今後も本協議会を中心に、関係者が相互理解のもと目指す将来像に向けてしっかりと連携・協働することで、公共交通の利用者、交通事業者、事業所を含めた地域の三方良しとなり、市の発展につながることを期待しています。どうか、本日も忌憚のない活発な議論を交わしていただくようお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。

2. 議　　題

(1) これまでの協議結果について

土井会長：まず、これまでの協議結果について、事務局より説明をお願いする。

事 務 局：（資料1について説明）

土井会長：ただいまの説明についてご質問のある方はいるか。

いないようなので、次の議題に進ませていただく。

(2) 山形県鶴岡市への視察結果について

土井会長：続いて、資料2の山形県鶴岡市への視察結果について、事務局より説明をお願いする。

事 務 局：（資料2について説明）

土井会長：山形県鶴岡市での取組は全国的に有名なわけではないのだが、摂津市と類似した状況でうまく実施している事例で、先方からは大変多くのことを教えていただいた。今回の資料だけではわからない点も多いと思うが、質問などないか。

北西委員：循環バスの運賃が300円ということで、路線バスよりも高いところもあると思うが、どのような仕組み・考え方で料金を設定されているのか。

また、ハイエースになる前は26人乗りということで、小型化して狭いところにも入っていけるようになったということだが、乗車定員も少なくなるため収支的にも厳しいところもあると思う。市内循環バスについて、事業者に対する補助や、高齢者のゴールドパス購入に係る支援など、行政としての支援はどのような仕組みになっているのか。

3点目として、便数の増加に伴い利用者が増えたということだが、3つのコースの平均利用者数などがどうなっているのか分かれば教えていただきたい。

事務局：運賃について、再編前の市内循環バスは対距離制で200～420円だったが、利用が特に多い200～300円台を基準に、わかりやすさの観点からも1乗車300円にしたとのことである。また、行政からの補助について、循環バスにどの程度投資しているかなどは確認できていないが、市の一般会計予算が700億円程度に対し、公共交通に2.7億円程度の事業費を充てていると聞いている。平均利用者数はコースによってばらつきがあるが、直近の実績値である令和6年8月の利用者数は、Aコースが右回り・左回り合計で2,500人程度、Bコースが2,800人程度、Cコースが2,600人程度となっている。

青木副会長：見直し前における利用平均をもとに300円としているとのことである。また、車両を小型化して便を増加した点について、収益の見込みは不明だが、利用者・市民の視点に立って、移動の重要さを改めて認識したうえで見直しを図っている。また、利用状況について、街並みによってコース形成が異なっており、旧市街地を走行するコースや新たに区画整理されたエリアを走行するコース等、土地利用状況にあわせてコースが設定されており、利用状況もそれぞれで異なっている。

土井会長：元々循環型の路線があったところを大きく見直し、改善を重ねながら現在の形になっているということが重要である。

森田委員：市内循環バスはAからCの3コースに分かれているが、それぞれのコースを乗り継いで利用する場合、利用者が使いやすいように乗り継ぎの利便性や料金などは考慮されているのか。

事務局：バス路線が重複する箇所で乗り継ぎが行われており、運賃の面でもICカード利用時のみではあるが1日乗り放題500円で、何度乗り換えても往復料金よりもお得に利用できる形となっている。

青木副会長：1周あたりの乗車時間を短くするため、3コースに分けて乗車時の負担を軽減したことが再編の大きなポイントである。コミュニティバスでは珍しいが、乗り継いで様々なところに行けるということをかなり重視されており、それを市民にも理解してもらえるよう熱心にアピールをされていた。また、各コースも右回り・左回りの両回りを作ることによって利便性を高めており、実際に乗車した際とても使いやすいと感じた。

また、地域状況や利用状況も変わっていくため、常に利用者の視点に立って細やかな見直しを行っており、摂津市においても計画を策定し施策を実施していくうえで大変参考になる取組であると考えている。

細井委員：高齢者福祉施策を担当するうえで、夏の暑い時期などの待合環境の確保は非常に重要と考えている。ご紹介いただいた鶴岡市の待合環境は、既存施設を活用されているのか、新たに用地を確保して整備されているのか、教えていただきたい。

事務局：庄内交通が運営するエスモールというショッピングモールの一部を活用して待合環境の充実が図られていた。その他、公園に接した停留所ではトイレやベンチ、上屋などを併設した待合環境が整備されており、既存の施設等をうまく活用されていた。

青木副会長：エスモールバスターミナルは今回の循環バス見直しに合わせてリニューアルしており、交通事業者としてきれいな待合環境を整えることを重視されていた。また駅の待ち空間を使って待合環境を確保するなど、天候や利用者の状況を考慮して整備が行われている。

葉委員：コース内に大きな病院が2つあり、いずれも民地内まで乗り入れることで、病院に設置されているベンチなどの待合環境をうまく活用できるようにしている。

寺田委員：高齢者を利用のターゲットに絞っているということだが、高齢者数ではなく高齢化率の高いエリアをカバーすることにしたのか分かれば教えていただきたい。

青木副会長：鶴岡市は市域が広くなっているが、高齢者の多くが中心市街地に住まれている状況である。高齢者の中でも、特に移動が難しい独居の方をカバーしていくことを重視されていた。

森田委員：見直し後の循環バスにおいても、バスコースから距離が離れたエリアがあると思うが、そうしたエリアからバス停まで歩いてどれくらいかかるか等は把握されているか。例えば別府地域では路線バスのコースや地下鉄駅までの間に住宅地が広がっており、こうした地域をどのようにカバーしているのかを伺いたい。

事務局：バス停の距離は高齢者の歩行可能距離 300m を目安に設定したと聞いており、ある程度その範囲に収まっているのではないかと思うが、住宅地からどれくらい距離があるかは確認できていない。さらに狭い道まで入るかということも検討されたそうだが、冬場に除雪が行き届かない道路は外す必要があり、現在のコースになったようである。また、夏はコースを変更することも考えられたが、利用者へのわかりやすさの観点からコースを統一しているとのことであった。

島内委員：この検討に併せて路線バスの縮小をしているのか。

事務局：路線バスの縮小については確認できていないが、もともと郊外の路線バスが厳しい中で、今後は市街地の利用者を増やしていくという観点で取り組まれていると聞いている。

(3) 摂津市地域公共交通計画（素案）について【要点抜粋】

土井会長：続いて、資料 3 の摂津市地域公共交通計画（素案）【要点抜粋】について、事務局より説明をお願いする。

事 務 局：（資料 3 について説明）

土井会長：ただいま事務局より説明いただいたが、分科会でどのような議論があったのかということについて、分科会長を務める青木副会長から、補足説明をお願いする。

青木副会長：分科会では、それぞれの分野の専門的な観点から様々な意見をいただいた。例えばタクシー乗り場については、道路の狭い地域では、タクシーが入れるところまで利用者側が少しだけ歩くなど、互いに寄り合っていくことでサービスが提供できるということから生まれた施策である。また、職と住が混在しており地域としての持続性が高いという利点を生かした施策が重要だということで、産業にも踏み込んだ取組も盛り込んでおり、これは全国的にはあまりない先進的な事例である。

この計画は 30～50 年先という長いスパンで検討しているが、孫の世代まで今の摂津市を残していくには、公共交通を利便性高く残していくことが必要だということで、利用者の視点に重きを置き、6 つの観点をまとめた。

そのうえで、まずはこの 5 年間で出来ることをやっていこうということで、例えば、小さなモビリティやシェアサイクルなど、新しい移動手段が近年出てきているので、高齢者が元気に暮らしていけるような手法を入れていくという提案が出てきた。

その大前提として、既存の公共交通を維持することが重要で、既存の交通に乗り継いでいくという観点があり、ラストワンマイルが非常に重要だという共通認識のもとで計画を作っていくこととした。そのため、現時点ではどのような形になるかはわからないが、セッピィ号を見直していく必要があるとして計画に盛り込んでいる。またタクシーはこれからの交通機関として非常に重要となるが、タクシー会社だけではなく、地域の事業者や住民との協働が重要であるとして、意識改革の取組も盛り込んだ。

地域の状況は高齢化の進行などにより、地域によっても違いが出てくるため、作ったら終わりということでなく、アジャイル型で見直しながらやっていく。具体についてはこれからなので、状況に応じてブラ

ッシュアップしていくことになる。

土井会長：ご質問・ご意見があればお願いする。

野津委員：具体的な施策としてセッピィ号や市内循環バスの見直しを挙げていただいており、これまでに十分な見直しができていないことや、ニーズに合ってない点なども踏まえ、改善は必要だと思う。一方、路線バスも乗務員の確保が厳しくなってきており、今の路線バスの輸送を維持していくことが難しくなっている中で、路線バスの機能を一部セッピィ号にも担ってもらうといったことも必要になるかもしれない。路線バスとセッピィ号、循環バスのあり方については、近鉄バスや京阪バスとともに事業者として十分に考えていきたい。また、本格運行まで5年後となっているが、スケジュール感を踏まえながらできるだけ早い時期で試行的にできそうなことも提案していきたい。

土井会長：公共交通では連携や共創ということがよく謳われるが、まずは役割・機能の分担を考えたうえで連携・共創に取り組んでいくという順序が必要であると思う。

森田委員：先ほど運転者や人口が減ってくるため撤退もありうると言われていたが、近年様々な分野で改革や提携あるいは企業の統合などが進んでおり、例えば運転者であれば女性の積極的な採用や、フルタイムでない働き方も含めて、もっと採用の幅を広げていくことなどはできるのではないか。失礼ながら、これまでの公共交通分野はこうした取組がなされておらず、撤退の判断をする前に、こうした工夫の観点から生き残っていくことを、企業だけでなく組合も含めて柔軟に考えていただきたい。

野津委員：女性ドライバーについてはすでに採用を広げていっているところであり、女性専用の休憩室やパウダールーム、シャワー室などの設備・施設の改善などにも取り組んできている。また、多様な働き方については、どうしても早朝・深夜の勤務が多い業界であるが、昼間だけ従事する勤務形態で採用していくことも検討しており、どうすればマッチした働き方ができるかについても研究を進めているところである。頂いたご意見も参考にしたいと思うが、決して取り組んでいないわけでないことはご理解いただきたい。

土井会長：交通事業者のリソースだけで維持することが難しくなってきているが、自治体によっては職員が二種免許を取得して、不足する所を一部担う取組も出てきている。再編の取組とあわせて、こういった交通事業者のリソースを補う対応も必要である。

江藤委員：利用促進につなげていこうとすると、バス路線の現状などを見える化していくことが重要である。これまで路線廃止された地域では、ここまで厳しい状況とは知らなかったなどといった声を聴くことがあり、知ることで積極的に利用する行動にも繋げられると考える。箕面市では乗車率を明示するとともに、ある乗車率を下回ったら見直しを検討するといった基準を設けており、こうした発想も検討いただければと思う。

葉委員：公共交通を維持していくうえでは、事業者、行政、市民それぞれが資源を出し合って連携していくことが重要である。摂津市の1番の特性としては事業所が多いということであり、各所から資源を出し合って、同じ方向を向いて、あわよくばWin-Win-Winになる関係を作ることができれば理想的である。

　加えて、この計画が50年先を見据えるという意味では、施策を継続的に実施し、支えていく“ヒト”が非常に重要になってくるため、モビリティマネジメントや交通需要マネジメントのほか、将来世代を担う子どもに対する教育も含めて、“ヒト”の確保・育成に対する施策を多く盛り込んでいる。例えば、能勢町では高校生がそうした問題に向き合い、アイデアを出し、町の方々に提案していきながら作り上げていくということを実施している。こういった取組を通じて自分ごとであるという意識を育み、人手が足りないということに対して高校生の手も借りるということも含め、各セクターの中で新しい関係性を作っていくことができればよい。将来を担う人材育成をしていくということは非常に重要であるため、この協議会でもそのような認識をいただきながら、各々が出せる資源を出しあって取り組んでいければと考え

ている。

森田委員：市、市民、交通事業者との連携が大事だと思うが、例えば駅から少し離れた事業所まで専用の送迎バスが出ている様子がよく見受けられるのだが、こうした事業所を巻き込んで、もっと通勤に公共交通を使ってもらうように働きかけていくことも取り組んでもらいたい。

地域住民へのアンケートでは、行きたいところがあるが諦めている人が 4 割程度おり、こうしたニーズ把握は大事である。摂津市は大阪市内への移動だけでなく新幹線、空港などにも行きやすく便利な土地だと思うが、いざ住んでみると市内での移動があまり便利でないという状況になっていると思う。

土井会長：いずれにしてもそのようなニーズ調査は必要になってくると思う。

寺田委員：KPI を設定することで施策の達成状況をどのように確認できるのか、どのようにつながっているのかを教えていただきたい。また、実施期間内に検討や調整となっている施策について、進捗状況の確認などをどのように行うのか。

事務局：例えばラストマイルによるカバー状況については、多様な移動手段を確保することで、既存の交通手段につなげていくことを評価していく。年間免許返納件数については、公共交通があるから免許を返納できるという観点もあることから、自動車からの転換ということを見据えて設定している。

KPI については細かに設定しているほか、全体の指標としてアンケートや公共交通の利用割合、利用者数によるモニタリング指標など様々な角度から分析しながら見ていきたいと考える。

寺田委員：今おっしゃったような施策の達成に向けて、なぜこのような KPI を設定しているのかを記載してもらえると分かりやすいと思う。5 年間の計画期間で担当者も変わっていくと思うので、施策と KPI の関連性の考え方を記載しておいた方がよいと考える。

土井会長：KPI は追跡・蓄積できることが重要であり、これまでとっているデータも使えるということでこのような指標が設定されている。一方で、市民からはニーズにどれだけ応えてもらえているかの観点が重要であるため、ニーズ調査とリンクした KPI を設定することも重要である。今後、ニーズ調査は行う予定はあるのか。

事務局：ニーズ調査は非常に重要であるため、来年度以降で取り組んでいく予定としている。

土井会長：KPI というのは行政目線になりがちなので、市民目線でもしっかりと考えて、三方良しとなるよう取り組んでいただきたい。

3. 今後のスケジュールについて

土井会長：それでは今後のスケジュールについて事務局よりご説明をお願いしたい。

事 務 局：（資料 4 について説明）

土井会長：スケジュールについて何か意見がある方はいるか。特になければ、事務局の方で鋭意進めていただきたい。

○ 閉　　会　（15 時 30 分）

以上